

山口茜さん 応援レポート

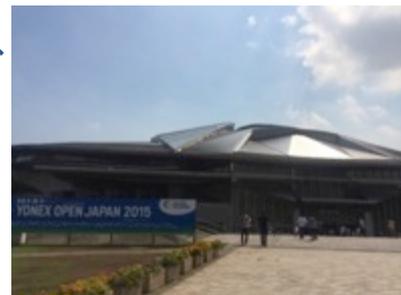
YONEX OPEN JAPAN 2015

2015年9月9日(火)～12(日) 東京体育館

世界トップランカーが集結。初戦突破が第1目標

ヨネックスオープンには、年間12大会ある世界最高峰の国際トーナメント・スーパーシリーズのひとつ。限られた精鋭のみ出場が許される。現在世界ランキング10位の山口さんにとって、6月のUSオープン以来久し

ぶりの国際大会であり、一昨年、高校1年生で優勝を成し遂げて話題をさらった大会でもある。今年は初戦から3戦3敗の選手が対戦相手だ。山口さんが強豪相手にどう戦ってくれるのか、応援に向かった。



会場の東京体育館



大会パンフレットでも、山口さんは注目選手としてクローズアップされている。

「毎年この大会は良いプレーができていると思う」「相手が驚くような、他の選手とは違った球を打つことができるかな、と思っています。そういったプレーを見てもらえればうれしい」「まずは1回戦突破。3回くらい対戦して1回も勝ったことがなくて(苦笑)」



<ヨネックスカップ・ジャパンオープン>

日本初賞金付きバドミントン国際大会で、今年は34回となる。世界バドミントン連盟(BWF)が実施しているトーナメントシリーズのうち、世界ランキングの上位に位置していないと予選にすらエントリーが難しいオリンピックや世界選手権に次ぐ最高峰の大会である。この大会で勝利するとランキングが上昇する。なお、リオ五輪に出場するにはBWFが定めた対象の大会で勝利し、世界ランキングで上位に入ることが条件。(パンフレットより抜粋)

9月9日 初戦

勝ったことのない相手に、ストレート勝ち！

初戦の相手は世界ランキング8位のスン・ジヒョン選手（韓国）。大会のHP等で報じられていたように、山口さんにとっては厳しい試合展開となることを予想してしまっていたが、その予想はいい意味で裏切られた。

ゲームの始めから山口さんはポイントを重ね、追いつかれる場面もあったものの1ゲームを先取。続いて2ゲームもあっさり奪い、試合時間わずか39分で21-18 21-12の**ストレートで完勝**とした。
山口さん、強くなってる！



“コート風のうまく読み、相手の攻めを上手く切り返してポイント。また「ドロップに対する反応が悪いようだったので多用した」と山口さん。”（大会HP抜粋）
ドロップとはネットぎりぎりで落下するショットのこと。



スン選手は175cm。
山口さんは身長156cmでバドミントン選手としては小柄。でもジャンプ力で高さで負けてない！

9月10日 2戦め

のびのびとプレー。山口さんのペースで圧勝

USAのツァン・ベイウエン選手が2戦目の相手。

試合が始まると、山口さんはどんどんポイントを重ねて、

大差で1ゲームを獲得。前日に勝利を得て、リラックスしてショットを打っているように思える。

2ゲームめも山口さんのペースで試合が進み、21-11 21-15と見事な勝利をおさめた。



試合時間もあっという間の26分。

9月11日 準々決勝

ロンドン五輪金メダリストに白星！もう勝てない相手はいない

中国のリ・シュエイ選手はロンドンオリンピックの金メダリスト。山口さんは6月のインドネシアオープンで勝利して話題となった。そうは言ってもランキングはまだ上位(4

位。山口さんは10位)、強敵だ。「(山口さん)どこまで出来るかではなく、勝つぞと思って戦えるようになった。」(大会HP抜粋)

1ゲームを穫り、2ゲームを

落としたがファイナルゲームを奪取しての勝利！

テニスの錦織選手の言葉を借りれば、**もう勝てない相手はいない、そんな山口さんの勝利**だった。



この日から会場もライトアップ。「リオ五輪は当然目指しているがトップ選手と戦い勝ち切れることはこれから上を目指す上で自信になる」(大会HP抜粋)大舞台でも自分のプレーができるのは、トップアスリートの証。

9月12日 準決勝

鳥肌の立つ激闘83分。競り勝てる強さに感動

中国のワン・シーシャン(中国)相手の準決勝が始まった。気持ちよく連続ポイントも決まり、1ゲームを獲得。しかし次ゲームからはワン選手の球がイヤなところに決まり出して、あと一步で山口さんが追いつけないシーンが…。

2ゲームめを取られた後のファイナルゲームもなかなかポイントが決まらない。もどかしい、でも**山口さんの真の強さ**がわかったのはここからだった。18点で追いついて同点に。20-20とした後は、お互いが1点を追いかける手

に汗握る試合となった。延長に次ぐ延長、ショットごとに会場も大歓声。そして5度目のマッチポイントで**山口さんのスマッシュが決まった!**「目の前の1点に集中し、会場の応援もあって勝つことができた」(大会HP抜粋)。



態勢を崩されても粘り強く球を拾う。あきらめなければ勝てるんだ！感動をありがとう！と、この日の観客(私)はずっと茜さんに感動酔い。

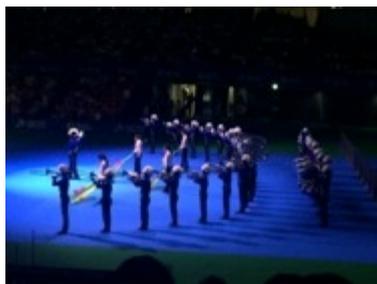
9月13日 決勝

日本勢同士の決勝戦。悔しい敗戦は次回への糧に。 スーパーシリーズ 準優勝おめでとうございます！

決勝戦は、ヒザのケガから完全復活した奥原選手。山口さんより2歳上の20歳で、「元祖スーパー高校生」と場内アナウンスで紹介された。同年代のふたりは、ともに世界を目指す日本代表としてお互いを知り尽くしているのだろうな、と想像しながら決勝戦の開始を待った。

いよいよ試合が始まった。ランキングでひとつ山口さんを上回る奥原選手の球が、するりとポイントを稼ぐ。対して、山口さんの球はきわどいところでアウトになる。2人のショットの差がどこにあるのか素人目にはわからなかったが、1ゲーム、そして2ゲームも奥原さんの手に。

山口さんは惜しくも準優勝。表彰台の表情もどことなく悔しそうだ。が、初戦を突破してからついつい高い期待をしてしまったが、**高校生にしてスーパーシリーズでの準優勝は快挙！**強敵を次々と打ち破った姿は、多くの人に感動を与えてくれた。おめでとうございます、山口さん！



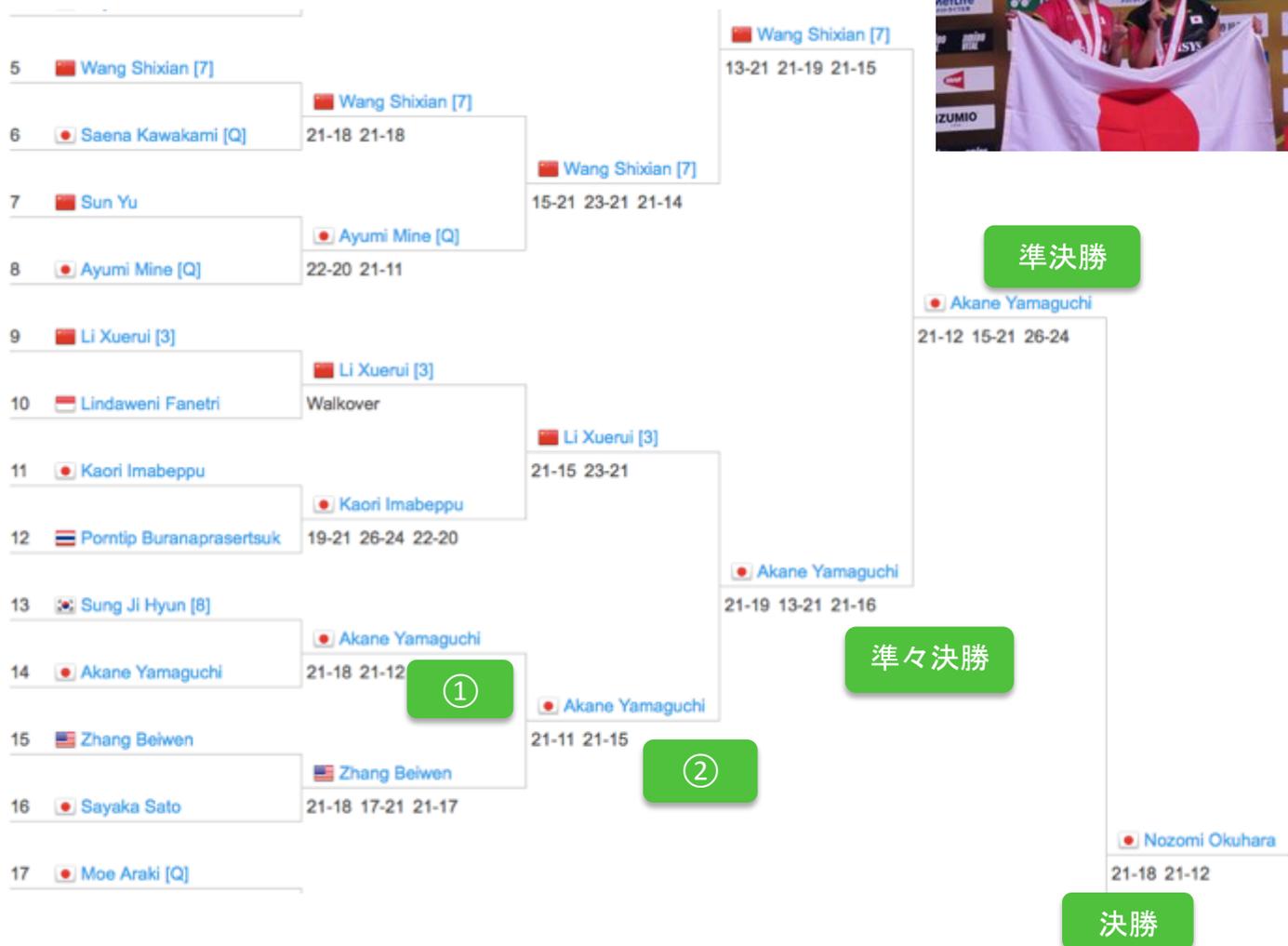
セレモニーも行なわれ、決勝戦への期待が高まる。山口さんら選手は、プラカードに先導されて入場。

決勝戦でも、山口さんの身体能力の高さがわかるすごいシーンがいっぱいあった



左から
山口さん、奥原選手、
ワン選手

ヨネックスオープン 山口さんの記録



BWF World Rankings

Women's Singles

Rank	Country	Player
1	IND	Saina NEHWAL
2	ESP	Carolina MARIN
3	TPE	TAI Tzu Ying
4	CHN	LI Xuerui
5	THA	Ratchanok INTANON
6	CHN	WANG Yihan
7	CHN	WANG Shixian
8	KOR	SUNG JI Hyun
9	JPN	Nozomi OKUHARA
10	JPN	Akane YAMAGUCHI